

# 氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト かわら版

第7号  
H30.2  
発行/津島の  
宝物ひろめ隊  
津島市本町1  
丁目29番地

## ●プロジェクトの内容

津島の宝物ひろめ隊は、まちの地域資源は津島の宝物と考え、その魅力を広める活動をする市民活動団体です。

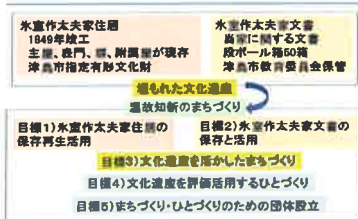
「氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト」は、津島市の「つしま歴史・文化のまちづくり提案補助事業」の採択を受けて実施しています。氷室作太夫家住居や津島御師、そして津島市の歴史を学び、その後を考えようという形式で平成29年8月の第2土曜日から開催してきました。

「氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト」も今回で、今年度の最終回になりました。関係者の皆様には、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ●活動報告 (2/10)

平成30年2月10日(土)にプロジェクトの第7回目を開催し、事務局を含め11名の参加がありました。今回は、名古屋大学教授の西澤泰彦先生を講師としてお招きし、【温故知新のまちなか再生】一津島市指定有形文化財氷室作太夫家住居を核としたまちづくりとひとづくりーのお話をいただきました。西澤先生からは、氷室家住宅と氷室作太夫家文書の現状を踏まえつつ、これらが持つ文化遺産としての潜在的な価値を活用した津島市中心市街地の再生案のプロジェクトの説明がありました。

### 現状と目標



<進め方> 目標の実現には長い時間が必要であり、その目標年を氷室家住宅竣工から200年となる2049年と仮定し、以下のような段階的な方法をとる。

1) 今すぐできること (2020年まで)

①氷室作太夫家住居：建物の魅力、価値を広報→建物を実感→保存活用の重要性を市民に理解してもらう。i) 定期的な見学会を開催 ii) 活用案のアイデア・コンペ iii) 保存活用計画を策定

②氷室作太夫家文書：文書の貴重さ、重要さを広報、宣伝→文書の保存と読解作業の重要性。i) 文書の翻刻、解読→ii) 文書の翻刻と解読内容の段階的に公表 iii) 文書に依拠した当時の御師の生活・習慣を再現。③文化遺産・歴史遺産の把握：回遊ルート沿いの文化遺産・歴史遺産を把握。④建物と文書の双方を見るコアスタッフの確保：建物・文書の専門家相互の情報交換→課題を議論するコアスタッフ→市民団体→氷室作太夫家住居の保存活用計画策定に関与。

2) 2029年(伊勢湾台風70年)までに実現させること

①氷室作太夫家住居の保存活用に沿った工事：i) 保存再生工事の設

計を進め、後半で再生工事竣工。ii) 資金確保：1口3000円で4万口を目標。毎年1口、10年で10口→労力、頭脳の協力も募る。iii) 活用の常態化を図る方法の考案と決定。例：御師の生活再現と体験、地域施設として活用・管理、回遊ルート拠点化、ガイド+管理人養成。②氷室作太夫家文書：i) 翻刻と解読を完了→視覚化方法検討。ii) 古文書対応人材の養成。③回遊ルート：回遊ルート沿いの市街地再生、特に既存建物の活用、耐震化促進、コミュニティ再生。④人材育成：幅広い視野で文化遺産・歴史遺産を評価し、活用案を作成できる人材(仮称「津島びと」)を育成。

3) 2049年(氷室家住宅竣工200年)までに実現させること

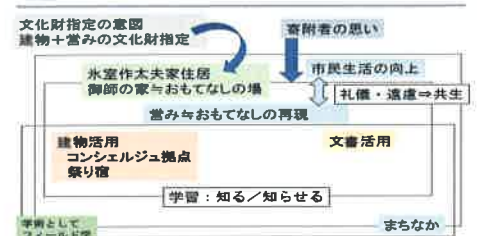
①氷室作太夫家住居：再生工事後の維持管理、まちなか再生事業の拠点化。②氷室作太夫家文書：解説結果を活用した歴史、民俗学研究的の推進。文書のデジタル化。③回遊ルート：「津島びと」による「まちなか再生」の提案と実行。→人口減少に応じた市街地再生、コミュニティ再生案を作成、実行。④人材育成：「津島びと」の継続的育成。「まちなか再生」アドバイザーの養成、活動推進、他市町村への啓発。

## ●意見交換会 ～意見の一部を紹介します～

- ・津島には良い祭りがあるので、お祭りの時だけ限定で泊まれる外国人観光客の宿「祭り宿」にしてはどうか。非日常的な場所にする。
- ・津島おもてなしコンシェルジュの起点にする。
- ・「おもてなし」「伝統芸能」「津島の迎賓館」。。。。ここに来たら、いつでも何かをやっている場所にする。
- ・桑名市の六華苑(旧諸戸清六邸)のように、地元の人が情熱を持って関わり、まちづくりをしていく。
- ・伊勢市の御師と関わりを持つ。今でも御師制度が残っている地域と連携して「御師サミット」を開催する。
- ・氷室作太夫家住宅が市指定の文化財となっている以上は、近い将来、氷室家で御師の「もてなし」の衣・食・住の体現が出来る場所にする。
- ・津島御師の文化、津島御師の暮らしぶりや活動を、次世代に伝えていきたい。伝える人材を育てていく。
- ・日々生活する地元の津島の人にも、津島御師と市指定文化財の氷室作太夫家住宅をアナウンスする市民が自主的に活動していく団体を組織する。そして多様な意見を受け入れ、活発な意見交換等の活動をしていき、氷室作太夫家住宅の持主である行政は、その声を吸上げる。

## ●まとめ

おもてなし⇌礼儀・遠慮⇒共生(ともいき)



氷室作太夫家に伝わる古文書から、氷室作太夫家の御師としての活動を知ることができます。

御師はそれぞれ旦那場(布教活動を行う担当地域)の持ち場が決まっていて、持ち場の村々の檀家廻りをし、祈禱や神札の頒布を行っていました。

### 氷室作太夫家の旦那場

氷室作太夫家の旦那場は、18世紀中頃に最初に尾張を旦那場とし、次いで19世紀に入り三河、遠江、駿河が旦那場になり、19世紀中頃美濃に拡大していきました。

### 廻村活動(檀家廻り)

氷室作太夫は御師として夏と冬の年2回檀家廻りをしていました。檀家廻りには御札や土産物を持参し、時には祈禱を行い、頼まれれば名付け親などもしていたようです。檀家廻りで配られた御札には、村などへ出された御禦(おふせぎ)という御札の他に、真札、行札、草札、小札、小守といった個人向けの御札がありました。

氷室作太夫家文書の中に、「甲申文政七年十月吉日 冬廻荷作覚帳 夏廻荷作覚帳」という史料があります。これは檀家廻りに出かける時に持参する持ち物が書き記されているもので、以下のように記載されています。

冬旦廻調物之覚		夏旦廻入用調物類	
御札用		御札	小中書札
鯛・干貝	こんぶ 附木	団扇類	大丸式楽うちハ 絵うちハ小うちハ
旦方帳 <sup>并</sup> 初尾帳	小遣銭	宿土産類	雨とい
袴 羽織	綿入類 綿古手拭	傘 手かさ	かむり笠 扇子
股引	はき 袷 袷	じやうす	旦方帳 <sup>并</sup> 初尾帳帷子 <sup>カンマミ</sup>
すた袋	やたて 帯 三尺帯	ひとへもの	細じばん 湯かた
足袋	木履 たはこ入 髪ゆい	羽織 袴	三尺帯 手拭上下
道具	かみすり 傘とい	髪ゆい道具	かみすり 油 もとゆい
		足袋	はき 木履 遣銭

この史料によれば、夏は団扇類を、冬は鯛、干貝、こんぶなどを土産としたことが分かります。また、別の史料では、御札に疝薬などの薬を添えていたことが記されているものもあります。

### 津島代参の時の宿

御師は旦那場へ出かけて御札を配るだけでなく、旦那場の人々が津島に代参に来た時や伊勢など他の社寺参りの途中で立ち寄る場合には休憩場所や宿を提供したり、旅費などの金銭を貸し付けるなどの世話もしていました。